

### 1 基本的な考え方

現行戦略		第1回WGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)
項目	内容	検 証 (現行戦略への意見)	今後の方向性 (次期戦略への意見)	
めざす姿	幅広い世代が集い、つながり、心豊かに暮らせる包容力のある北海道	—	—	○現行戦略を基本として、経済・社会情勢の変化等を踏まえ、検討。
取組の 基本方向	① 一人ひとりの希望をかなえる ② 安心して暮らせる豊かな地域をつくる ③ 活力ある産業・雇用をつくる ④ 多様な連携により地域の活力をつくる	—	—	
戦略推進 基本方針	1 基本認識の共有と全員参加 2 市町村戦略との一体的推進 3 札幌市との連携強化 4 民間との連携・協働 5 分野横断的な政策展開 6 ポストコロナを見据えた社会変革等 7 施策の重点化	○施策の重点化が不十分ではないか。	○施策の一層の重点化、時間軸の意識が必要ではないか。	○現行戦略を基本として、 ・施策の一層の重点化（選択と集中） ・時間軸（短期的な視点・中長期的な視点）の意識 ・エビデンスに基づく効果的な対策等を検討。
枠組み	重点的に施策を展開する「重点戦略プロジェクト」、総合的な対応を図る「基本戦略」、振興局が中心となって推進する「地域戦略」の3つの戦略を基本に構成	—	—	○現行戦略の3つの構成を基本に検討。
推進期間	人口の長期的な展望に立ち、短中期の見地から施策を計画的に推進する観点から、2020年度から2024年度までの5年間	—	—	○現行戦略の5年間を基本に検討。
位置付け	北海道総合計画に基づく重点戦略計画、分野別計画の指針	—	○先行して策定が進められている国や道の総合計画内容の十分な反映が必要。	○国の総合戦略や道の総合計画を反映。

# 北海道創生総合戦略の検証・方向性

## 2 総合戦略の内容

現行戦略 項目	第1回WGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)	
	分野	検 証 (現行戦略への意見)		今後の方向性 (次期戦略への意見)
重点戦略 プロジェクト ・ 基本戦略 共通	総 論	<p>○人口減少を前提として、地域や社会のあり方を全般的に変えていく「適応策」に関する取組が不足しているのではないかと。</p>	<p>○人口減少対策には「緩和策」と「適応策」があるが、今後も人口減少が続いていくことが明らかであるため、「適応策」にシフトしていくべきではないかと。</p> <p>○デジタル化の推進による省人化や効率化、仕事の仕組みの変更に加え、住民の意識や行動の変容など、社会全体でリソースを捻出することが必要ではないかと。</p> <p>○協業化、共助、兼業、副業、マルチタスク等がキーワードで、今まで単一の仕事をしていた人が、複数の業務をこなすような社会を実現することが一つの突破口となるのではないかと。</p>	<p>○エビデンスに基づく効果的な「緩和策」をとりつつ、人口減少社会に「適応」するための施策の強化を検討。</p>
		<p>○北海道の人口減少は全国に先駆けて始まり、全国を上回るスピードで進行しているが、先駆的な取組が不足しているのではないかと。</p>	<p>○例えば、働き方の多様性や家族のあり方の多様性について寛容なメッセージを示すなど、対策も大胆に先駆けて実施していきべきではないかと。</p>	
	少子化・女性の転出超過	<p>○婚姻数、出生数の減少、女性の転出超過が継続。</p> <p>○北海道は東京に比べてジェンダー平等の意識が低い印象。家庭、子ども、親のケアに対する女性の負担が大きく、家庭と仕事の両立が困難。</p>	<p>○ジェンダーギャップの解消、女性が家庭と仕事を両立できる環境づくり、子どもを持つことへの経済的な負担感の解消に向けた取組や、社会全体で子どもを育てるという意識醸成について、一層の取組が必要ではないかと。</p>	<p>※P3に記載</p>

# 北海道創生総合戦略の検証・方向性

現行戦略 項目	第1回WGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)	
	分野	検証 (現行戦略への意見)		今後の方向性 (次期戦略への意見)
重点戦略 プロジェクト ・ 基本戦略 共通	転出超過 ・ 札幌 一極集中	○女性、若年層の転出超過、札幌への一極集中が継続。	○幸福度が高い人ほど、そこに住み続けたいという人が多い。自分が認められている時や、自分でやりたいことが実現できていることを実感した時に幸福を感じるという結果がでており、それが地域への住み続けに繋がると考えられるため、地域の一員、社会の一員であるという自覚ができる施策を検討すべきでないか。	<p>&lt;検証について&gt;</p> <p>○更なる課題の抽出のほか、これまでの施策の中で、評価できる点についても抽出(資料3-2)し、次期戦略に反映。</p> <p>&lt;今後の方向性について&gt;</p> <p>○経済・社会情勢の変化を踏まえた新たな視点や将来の人口推計を見据え、どのような「①緩和策」、「②適応策」が考えられるのか方向性を検討。</p> <p>→①緩和策 人口動態要因分析(資料3-3)を勘案し、取組の方向性を検討。</p> <p>→②適応策 想定される人口減少の影響に対して、どのような対応が必要となるか検討。 (キーワードや例示の抽出)</p>
	人手不足	○生産年齢人口の減少により、様々な業種、地域で人手不足が顕著。	○中長期的には若者や女性への対応、短期的には高齢者の活用促進が有効ではないか。  ○年齢、性別、障がいの有無に関係なく、外国人も含め多様な人材を活用していくダイバーシティマネジメントを早急かつ広域的に進める必要があるのではないか。	
	外国人への対応	○増加する外国人に対して、受け入れに関する体制や地域住民の意識の醸成に向けた取組が不足しているのではないか。	○多言語標記や、やさしい日本語の活用促進に加え、受け入れに向けた地域住民の意識醸成が必要ではないか。また、今後は外国人家族の受入体制の整備が必要となってくるのではないか。	
	単身者への支援	○今後、未婚の単身高齢者が増加することが確実だが、現行戦略には対策の記載がなく、取組が不足しているのではないか。	○従来家族内で対応できていたケアが、できなくなるということを踏まえ、単身高齢者に対する支援について明文化が必要ではないか。	

# 北海道創生総合戦略の検証・方向性

現行戦略 項目	第1回WGでの主な意見			対応方向 (事務局の考え)
	分野	検証 (現行戦略への意見)	今後の方向性 (次期戦略への意見)	
重点戦略 プロジェクト ・ 基本戦略 共通	企業立地	○ラピダス進出による大きな期待がある一方で、地域の人手不足に一層の拍車がかかることなどが懸念。	○特定の地域で大きなプロジェクトがある時に、その効果をいかに全道に波及させるのか、各地域のデメリットをいかに小さくするのかという観点が必要ではないか。	※P3に記載
市町村 戦略支援	人的支援	○デジタル化などの新たな政策課題に対応する人材等が不足。	○不足する人材への支援が必要ではないか。	○現行戦略を基本とした財政的支援、情報支援、人的支援、民間ノウハウ等を活用した支援を検討。
札幌市 との連携	—	—	—	○道と札幌市が一層連携を深め、共同で北海道創生に向けた施策を推進。
数値目標 ・ KPI	総括	○数値目標やKPIの進捗の判断として、80%以上の進捗となっている指標が多いことをもって概ね順調と判断することはできないのではないか。  ○数字の裏に色々な現状があり、置かれている立場でそれぞれの捉え方があるので、表現方法は慎重にする必要があるのではないか。	—	○数値の進捗だけでなく、課題を併記することとし、「資料3-2」のとおりに整理。

# 北海道創生総合戦略の検証・方向性

現行戦略 項目	第1回WGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)	
	分野	検証 (現行戦略への意見)		今後の方向性 (次期戦略への意見)
数値目標 ・ K P I	設定の 考え方	○札幌市と札幌圏、中核都市と中核都市の周辺都市、それ以外でかなり様相が違うが、北海道全体の合計値が指標となっているため、イメージの違いが出てくる。	○地方の小さな取り組みでも、それを集めていくと社会を変える力になるという概念的な考え方として、マス・ローカリズムという考え方があるが、そうした評価を加えていくと良いのではないか。	○次期戦略の数値目標、K P I の設定に当たっては、内容を厳選。  ○定量的な指標だけでなく、実態を表すことのできる定性的な指標を検討。
		○定量的な指標で一般的に使われているものを評価軸にすると、実態を読み取れない場合があるのではないか。	○例えば、もう1人産みたいと思っていただけ産めないと答える人の割合が減るとか、個人の意思が叶えられるようになった部分、個々人のミクロ的な情報をマクロ的に評価する軸があった方が現実をより読み取れるのではないか。	
		○合計特殊出生率について、今後「緩和策」を中心とするならば、現状値は評価できない。今後、「適応策」を中心とした戦略とするならば、数値目標とすること自体が適当か検討が必要。	○「地方創生総合戦略の根源的な指標である合計特殊出生率をどう扱うかの検討が必要。	
		○指標の数が多く、内容も濃淡があるため、厳選が必要ではないか。	○継続性も必要だが、一度古くなったK P I は捨てて、新たな視点を持ちながら、内容を精査することも必要ではないか。  ○若者に結婚を促しても限界があり、今後も未婚者が増えていくことが想定されるため、結婚しない人でも、この地域だと長生きして楽しく生きることができるといったメッセージを出せるような施策や指標もあると良いのではないか。	

# 北海道創生総合戦略の検証・方向性

現行戦略 項目	第1回WGでの主な意見		対応方向 (事務局の考え)	
	分野	検証 (現行戦略への意見)		今後の方向性 (次期戦略への意見)
数値目標 ・ K P I	設定の 考え方	○指標の数が多く、内容も濃淡があるため、厳選が必要ではないか。	○子供食堂や貧困に対する支援などで女性が起業している事例があり、人手不足で行政サービスが細る中、地域が活性化する道が開けるかもしれない。こうした女性の社会的起業を評価する定性的な指標があっても良いのではないか。	○次期戦略の数値目標、K P I の設定に当たっては、内容を厳選。  ○定量的な指標だけでなく、実態を表すことのできる定性的な指標を検討。
			○人手不足に対応していくため、ダイバーシティマネジメントを評価する指標が必要ではないか。	
			○社会との交流や人との繋がりがあ る人ほど社会的健康が高いため、社会的健康を指標に加えると、その地域での住みやすさというものが可視化されるのではないか。	
			○例えば特定地域づくり事業協同組合など、協業化や色々な方が参加できるような企業や団体を増やしていくことが非常に大事で、そうした取り組みを評価していく必要があるのではないか。	